

沼田たか子の活動報告

10/18

福島原発被災地スタディツアーに参加

避難指示により11年前のまま時間が止まったまちを見てきました。原発事故による被ばくの健康被害はもちろん、コミュニティが失われることによる社会的・精神的影響の大きさを強く感じました。



10/30
住吉自治会防災訓練

住吉自治会の防災訓練に参加しました



11/8

第3回定例会報告会・学習会

議会活動報告会と学習会「お金の流れと食の未来～金融機関の社会的責任とは～」を開催

学習会ではNPO法人APLAの野川未央さんからお話を伺い、日本の年金がアマゾンの森林破壊につながっている現状など私たちが預けたお金の流れについて考える機会になりました。



11/9

児童養護施設二葉学園視察、まちの居場所 Co-study space "Posse" 見学

各地の生活者ネットワークの議員と調布にある児童養護施設を視察しました。グループホームでは子ども一人ひとりが尊重され明るく家庭的な雰囲気の中で過ごしていました。



11/30 防災訓練～難病患者と介護者の避難と自宅待機を考える～

自宅で人工呼吸器を使っている方の防災訓練に参加。こちらのお宅では定期的に停電・浸水・火災など様々な想定で訓練をされています。



12/11

ふたごみつごサークル 『デュエット』クリスマス会

わかりあえる仲間が存在が支えになるそうです。多胎児の子育ては出生時のリスクも育児の負担も非常に大きく、社会の理解とサポートが必要です。



青砥駅前での議会報告



布担架での避難を体験。振動やねじれ、頭の高さが低いと怖いことなど多くのことに気づかされました。

議会後はレポートを作成・配布し、議会の様子や沼田の活動を報告しています。区民の皆さんの意見を伺う大切な時間でもあります。

お困りのこと、関心のある項目に○をつけてください。よろしければその内容や理由をあわせて教えてください。

医療・介護・福祉

内容：

子育て・教育

内容：

環境

内容：

人権・ジェンダー平等

内容：

その他

こんなまちにしたい、というご提案などご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

沼田たか子

PROFILE

- 1976年 新潟県吉田町(現:燕市)に生まれる。
- 1998年 新潟大学医療技術短期大学看護学科卒業。日本医科大学付属病院、新潟大学附属病院に勤務。結婚後、訪問看護師として働く。
- 2011年 聖徳大学人文学部心理学科卒業。生活クラブ生協加入。
- 2013年 葛飾区新宿に転居。子育てをしながら、生活クラブ生協まちかっしかの運営委員として活動する。
- 2017年 身近な地域で暮らす人々の役に立ちたいという思いから葛飾区内の訪問看護ステーションに勤務する。
- 2021年 葛飾区議会議員選挙に初当選
- 現在 文教委員会、区民サービス向上対策特別委員会に所属
- 資格：看護師、介護支援専門員、心理相談員
- 趣味：庭いじり、ヨガ ●家族：夫、息子 ●葛飾区新宿在住

NET 葛飾・生活者ネットワーク

議員は市民の代理人。生活者ネットワークは議員を代理人と呼び活動しています。

- 生活者ネットワーク
- ◆議員は交代制、議員の特権化を防ぎます
 - ◆議員報酬は市民の政治活動資金に
 - ◆選挙はカンパとボランティアで

〒125-0054 葛飾区高砂 8-21-1
TEL:03-5876-4757 FAX:03-5876-4758
e-mail:katsushika@seikatsusha.net
https://numata.seikatsusha.me



発行：2023.1.12
発行責任者：沼田たか子

葛飾区議会議員
ぬまた

沼田

区議会レポート Vol.5

たか子

e-mail:katsushika@seikatsusha.net
https://numata.seikatsusha.me

NET 葛飾・生活者ネットワーク



令和4年

第4回定例会 11/29 ~12/15

審議内容 ◆ 令和4年度補正予算を含む18議案、請願4件、議員提出議案3件について審議。

病气や障がいのでわけないで！
すべての子どもがともに成長できる環境づくりを求めます
区立幼稚園の統合について

区立幼稚園は私立幼稚園の補完的役割をになう存在として運営されていますが、水元幼稚園は近年園児数が減少しており、集団生活による学びの機会が十分に得られないなどの理由から、2025年度より北住吉幼稚園に統合することが報告されました。

現在水元幼稚園には、発達障害がある、他の園が馴染まず転園してきた、外国にルーツをもつなど多様な子どもが通園しています。統合により通園先を失う親子がいるのではないかと思い状況を確認すると、葛飾区の特別支援費用助成を受けた私立幼稚園が今年度は17園あり、障がいの有無にかかわらず子どもの個性に合わせた教育を実践している園や対応を工夫している園も多いことがわかりました。しかし、各園の特別支援の体制についてまとまった情報がないなど、保護者が全体から必要なサービスを比較検討して選択することは難しい状況です。縦割りといわれる、保健所・子育て支援・障害福祉・教育委員会など、子どもに関係する部署の連携をすすめ、発達に特性がある子ども、外国にルーツをもつ子ども、医療的ケアが必要な子どもなど、どのような状況や背景をもつ子どもも安心して一緒に過ごせる環境づくり、施設側も安心して受け入れられる体制の整備を要望していきます。

特性を障がいにならない
誰もが生きやすい社会へ

◆ ◆ ◆
特殊教育から特別支援教育へ

文部科学省は2007年の学校教育法改正において、障がいのある子どもの教育に関する基本的な考え方について、特別な場で教育を行う「特殊教育」から、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導・支援を行う「特別支援教育」へ転換しました。また、同改正により支援対象が発達障害を含めた障がいのある幼児・児童・生徒に拡大されました。

＊発達障害は脳の情報処理のしかたが生まれつき多くの人と違うことで、幼児のうちから行動面や情緒面に特性がある状態です。特性に応じた支援により社会適応力を身につけ、様々な能力を伸ばしていくことができます。

求められる利用者目線の相談支援体制

私立幼稚園での特別支援の実施について情報は公表されていないため、保護者が各園に問い合わせないとわかりません。発達に特性のある子どもの保護者にとって、子どもにあったを選択するための十分な情報提供のしくみや相談体制が必要です。

医療的ケアが必要な子どもへの対応について

2021年に医療的ケア児支援法が成立し、区でも医療的ケアの必要な子どもの区立保育園での通園体制を整えようとしています。すべての子どもがともに過ごせる学びの場はインクルーシブな社会の実現に不可欠であり、私立幼稚園においても体制の整備が望まれます。

政治は生活を豊かにする道具

沼田たか子
あなたの声をお寄せください。



◆ 公式WEBサイト、SNSはこちらから ⇒

